

修得程度の審査方法

第1 筆記試験による知識の定着の確認

1 基本方針

介護職員等のたん吸引等研修基本研修（講義）（以下「講義」という。）の全課程受講後に、筆記試験により、研修受講者が喀痰吸引及び経管栄養（以下「喀痰吸引等」という。）を安全に実施するための知識を修得していることを確認する。

2 筆記試験の受験資格

講義の全課程を受講した者は、筆記試験の受験資格を有する。

受験資格を有する者には、受験票及び受験案内を配布する。

ただし、試験中に不正行為があった場合及び受験資格に当たって虚偽又は不正の事実があった場合には、合格を取り消すものとし、筆記試験の受験資格を失うとともに、当該年度の研修を受講することができない。また、上記の場合、当該受験者に通知をするとともに、北海道へ情報提供を行うものとする。

3 筆記試験の実施時期

筆記試験による知識の定着の確認の実施については、講義の全課程受講後に行う。

4 筆記試験の出題範囲

講義の全科目を範囲とし、講義で使用した研修テキストから出題する。

なお、救急蘇生法演習ではAEDを使用して心肺蘇生を行うが、筆記試験の出題範囲からはAED使用の手順は除く。

5 出題形式

客観式問題（四肢択一）による。

6 出題数及び試験時間

- (1) 出題数 40問
- (2) 試験時間 60分

7 筆記試験の実施について

(1) 遅刻者の取扱い

遅刻者の入室許可は試験開始後40分までとし、それ以降は認めない。

(2) 中途退出

受験者の中途退出については、試験開始後40分経過後から許可する。

(3) 試験問題及び回答用紙の持ち帰り

受験者は試験問題及び解答用紙を持ち帰ることができない。

8 筆記試験の可否の通知

筆記試験の可否については、受験者に通知する。

9 再試験の受験

総正解率が7割以上9割未満に該当する受験者は、課題学習による補習を行なったうえで実施する。

10 試験問題の作成指針

試験問題については、次に掲げる作成指針に基づき作成する。

- (1) 細かな専門的知識を要求する問題を避け、医学的な問題に偏らず、喀痰吸引等を中心とした内容となるよう配慮する。
- (2) 「喀痰吸引等の対象者を観察した内容を適確に表現できる用語や指示が理解できる知識」及び「喀痰吸引等について行為の根拠や目的及び技術に関する知識」について基礎的知識を問う問題を中心とする。

- (3) 知識の想起及び理解を問う問題を中心に出題する。
- (4) 試験問題の作成に当たっては、基本研修（講義）の研修講師で構成する喀痰吸引等研修実施委員会合否判定専門小委員会（以下「合否判定委員会」という。）において検討・協議し、問題の客観的な妥当性を高めるよう工夫する。

11 合否判定基準

筆記試験の総正解率が9割以上の受験者を合格とし、講義を修了する。

総正解率が7割以上9割未満に該当する受験者は、当該受験者に課題学習等による補習を実施した上で、筆記試験による再試験（以下「再試験」という。）を実施する。なお、再試験の総正解率が9割未満の受験者は不合格とする。

筆記試験の総正解率が7割未満の受験者及び再試験の総正解率が9割未満の受験者は、不合格とし、受験資格を失う。受験資格を得るためには、講義の全課程を再度受講しなければならない。

第2 評価による技能修得の確認（基本研修（演習）及び実地研修）

1 基本方針

基本研修（演習）及び実地研修については、次の評価の実施により、研修受講者が喀痰吸引等を安全に実施するための技能を修得していることを確認する。

評価は、実際の喀痰吸引等の提供が安全管理体制の確保、医師・看護職員・介護職員等の連携確保や役割分担、医師の文書による指示等の条件の下で実施されることを念頭においた基本研修（演習）又は実地研修を実施した上で行う。

(1) 基本研修（演習）の評価

研修受講者が、演習指導講師の指導の下、演習シミュレーター（吸引訓練モデル、経管栄養訓練モデル、心肺蘇生訓練用器材一式）その他演習に必要な機器（吸引装置一式、経管栄養用具一式、処置台又はワゴン等）を用いて、演習を実施し、喀痰吸引等の提供を安全に行うための技術を修得していることを、演習指導講師が評価する。

(2) 実地研修の評価

研修受講者が、実地研修指導講師の指導の下、実地研修協力者の協力に基づき実地研修を実施し、喀痰吸引等の提供を安全に行うための知識及び技能を修得していることを、実施研修指導講師が評価する。

2 実施手順

基本研修（演習）及び実地研修の実実施手順は、表1「実施手順」のSTEP1からSTEP8の順に行うこととし、このうちSTEP4～STEP8について、表2「基本研修（演習）及び実地研修類型区分」の区分ごとに、5に掲げる基本研修（演習）及び実地研修の「評価判定基準」及び「評価票」を用いた評価を行う。

なお、人工呼吸器装着者及び半固形栄養剤の経管栄養を実施している利用者に対する基本研修（演習）及び実地研修は、研修受講者の就業している施設・事業所の利用者のケアの状況を勘案して実施する。

(表 1 「実施手順」)

STEP 1 : 安全管理体制確保 (実地研修のみ)	実際の喀痰吸引等の提供が、医師、看護職員との連携体制・役割分担の下で行われることを想定し、医師が実地研修指導講師である看護職員とともに、研修受講者の実地研修の実施についての総合的判断を行う。
STEP 2 : 観察判断 (実地研修のみ)	研修受講者の実地研修の実施ごとに、実地研修指導講師が、実地研修協力者の状態像を観察し、実施の可否等を確認する。
STEP 3 : 観察	研修受講者が、演習シミュレーター又は実地研修協力者の状態像を観察する。
STEP 4 : 準備	研修受講者が、医師の指示等の確認、手洗い、必要物品の用意や確認など、演習又は実地研修の実施に必要な準備を行う。
STEP 5 : 実施	研修受講者が、喀痰吸引等の演習又は実地研修を実施し、安全に行われたかどうかを確認する。 ※ 経鼻経管栄養の場合の栄養チューブが正確に胃の中に挿入されていることの確認を除く。
STEP 6 : 報告	研修受講者が、演習シミュレーター又は実地研修協力者の喀痰吸引等の実施後の状態を研修講師に報告する。
STEP 7 : 片付け	研修受講者が、演習又は実地研修で使用した物品等を片付ける。
STEP 8 : 記録	研修受講者が、演習又は実地研修で行った喀痰吸引等について記録する。

(表 2 「基本研修（演習）及び実地研修類型区分」)

社会福祉士及び介護福祉士法 施行規則上の行為	類型区分
口腔内の喀痰吸引	①口腔内吸引（通常手順） ②口腔内吸引（人工呼吸器装着者：非侵襲的人工呼吸療法）
鼻腔内の喀痰吸引	③鼻腔内吸引（通常手順） ④鼻腔内吸引（人工呼吸器装着者：非侵襲的人工呼吸療法）
気管カニューレ内部の喀痰吸引	⑤気管カニューレ内部吸引（通常手順） ⑥気管カニューレ内部吸引（人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法）
胃ろう又は腸ろうによる経管栄養	⑦胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下） ⑧胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）
経鼻経管栄養	⑨経鼻経管栄養
救急蘇生法	

※ ②・④の「人工呼吸器装着者に対する喀痰吸引」及び⑥の「胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）」の演習は、通常のカリキュラムでは実施しない。

よって、研修受講者が就業している施設・事業所に②・④の「人工呼吸器装着者」又は⑥の「胃ろう又は腸ろうによる半固形栄養剤の経管栄養を行う利用者」がいる場合で、今後研修受講者が当該サービスを実施する場合は、個別演習の受講が必要である。

(1) 基本研修（演習）実施手順

- ① 演習に先駆けて、基本研修（講義）の第Ⅱ部「第2章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説」及び第Ⅲ部「第2章 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説」の中で、演習シミュレーターに対して、講義担当講師が1回の実演を行う。

講義担当講師の実演後に、研修受講者は、演習のデモンストレーションとして「口腔内の喀痰吸引」及び「胃ろうによる経管栄養」を1人1回実施し、講義担当講師が観察・指導を行う。

- ② 演習は、1グループ研修受講者4人を目途に編成し実施する。グループを担当する演習指導講師は、「基本研修（演習）及び実地研修類型区分」の区分ごとに、グループすべての研修受講者に5回以上の演習を行わせる。
- ③ 演習指導講師は、演習実施ごとに「基本研修（演習）評価票」に評価を記録するとともに、毎回研修受講者と一緒に振り返りを行い、研修受講者は次の演習の改善につなげる。

(2) 実地研修実施手順

- ① 実地研修協力者（利用者）の状態像を踏まえ、実地研修指導講師の指導の下で研修受講者が実施可能かについて、医師の承認を得る。
※ 初回実施前及び実地研修協力者の状態が変化した時点において必要。
- ② 実地研修指導講師は、実地研修協力者の喀痰吸引等を行う部位及び全身の状態を観察し、研修受講者が実施可能かについて確認する。
- ③ 実地研修指導講師は、研修受講者が喀痰吸引等を実施している間においては、実地研修協力者の状態の安全等に注意しながら研修受講者に対して指導を行う。
- ④ 実地研修指導講師は、実施研修実施ごとに「実地研修評価票」に評価を記録するとともに、毎回研修受講者と一緒に振り返りを行い、研修受講者は次の実地研修実施の改善につなげる。また、研修受講者の喀痰吸引等に関する知識及び技能の到達度を踏まえながら、指導を継続していく。

3 実施上の留意事項

(1) 前記第2の2のSTEP1～STEP8に示す実施手順における研修講師の役割分担について

基本研修（演習）及び実地研修の研修講師である医師又は看護職員の役割分担については、次の①及び②により効果的かつ効率的な実施を行う。

- ① STEP2において、研修受講者が喀痰吸引等を安全に実施することができるか判断に迷う場合は、医師の判断を確認する。
- ② STEP3～8のいずれかの段階において、研修受講者が、緊急時対応の必要性や実地研修協力者の異常等を確認した場合においては、演習又は実地研修の研修講師である医師又は看護師が観察判断を行う。

(2) 研修受講者の実施できる範囲について

実地研修においては、前記2の実施手順STEP4～STEP8の研修受講者が実施する行為について、下記表3「実地研修実施上の留意点」に基づき実施する。

なお、エの経鼻経管栄養の栄養チューブが正確に胃の中に挿入されていることの確認については、研修受講者が行うことができないことから、基本研修（演習）のSTEP5においても、演習指導講師である医師又は看護職員が行う。

（表3「実地研修実施上の留意点」）

ア 研修受講者が行うことができる標準的な許容範囲	（喀痰吸引） 咽頭より手前の範囲で吸引チューブを口から入れて、口腔の中まであがってきた痰や、たまっている唾液を吸引することについては、研修受講者が基本研修を踏まえた手順を守って行えば危険性は相対的に低いことから差し支えないこと。 （経管栄養） 経管栄養開始時における胃腸の調子の確認は、実地研修指導講師が行うことが望ましいが、その際に問題がなければ、開始後の対応は研修受講者によっても可能であり、実地研修指導講師の指導の下で研修受講者が行うことは差し支えないこと。
イ 一定の条件の下、かつ、実地研修指導講師との役割分担の下、研修受講者が行うことができる許容範囲	（喀痰吸引） 次の観点を踏まえ、研修受講者は咽頭の手前までの吸引を行うにとどめることが適切であり、咽頭より奥の気道の喀痰吸引については許容範囲としないこと。なお、鼻腔吸引においては対象者の状態に応じ「吸引チューブを入れる方向を適切にする」、「左右どちらかのチューブが入りやすい鼻腔からチューブを入れる」、「吸引チューブを入れる長さを個々の対象者に応じて規定しておく」等の手順を守ることにより、個別적으로는安全に実施可能である場合が多いので、それらに留意すること。 ※ 鼻腔吸引においては、鼻腔粘膜やアデノイドを刺激しての出血がまれではあるが生じる場合や、また、鼻や口から咽頭の奥までの吸引を行えば敏感な対象者の場合、嘔吐や咳込み等の危険性があり、一般論として安全であるとは言い難いため。

ウ 一定の条件の下、 研修受講者が行う ことができる許容範囲	(喀痰吸引) 気管カニューレ下端より肺側の気管内吸引については、迷走神経を刺激することにより、呼吸停止や心停止を引き起こす可能性があるなど危険性が高いことから、気管カニューレ内部までの気管内吸引を限度とすること。特に、人工呼吸器を装着している場合には、気管カニューレ内部までの気管内吸引を行っている間は人工呼吸器を外す必要があるため、実地研修指導講師及び研修受講者は、安全かつ適切な取扱いが必要であることに留意すること。
エ 研修受講者が行う ことができないもの	(経管栄養) 経鼻経管栄養の場合、栄養チューブが正確に胃の中に挿入されていることの確認については、判断を誤れば重大な事故につながる危険性があることから、研修受講者の実施の許容範囲としないこと。 胃ろう・腸ろうによる経管栄養の場合、経鼻経管栄養に比べて相対的に安全性が高いと考えられるが、胃ろう・腸ろうの状態そのものに問題がないかどうかの確認について、研修受講者の実施の許容範囲としないこと。

4 評価判定

基本研修（演習）及び実地研修の総合的な評価判定は、研修受講者ごとに、表4に掲げる実施回数以上の基本研修（演習）及び実施研修を実施し、表5に掲げる「類型区分別評価項目」ごとの「評価の視点」に基づいた評価を行い、技能修得の判定を行う。

（表4「基本研修（演習）及び実地研修の実施回数」）

行為の種別	実施回数	
	基本研修（演習）	実地研修
口腔内の喀痰吸引（通常手順）	5回以上	10回以上
口腔内の喀痰吸引（非侵襲的人工呼吸療法）	5回以上	10回以上
鼻腔内の喀痰吸引（通常手順）	5回以上	20回以上
鼻腔内の喀痰吸引（非侵襲的人工呼吸療法）	5回以上	20回以上
気管カニューレ内部の喀痰吸引（通常手順）	5回以上	20回以上
気管カニューレ内部の喀痰吸引（侵襲的人工呼吸療法）	5回以上	20回以上
胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下）	5回以上	20回以上
胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）	5回以上	20回以上
経鼻経管栄養	5回以上	20回以上
救急蘇生法	1回以上	

※ 救急蘇生法については、評価を行わない。

（表5「類型区分別評価項目」）

・ 喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引（通常手順）	別紙1－1
・ 喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引（非侵襲的人工呼吸療法）	別紙1－2
・ 喀痰吸引 気管カニューレ（通常手順）	別紙1－3
・ 喀痰吸引 気管カニューレ（侵襲的人工呼吸療法）	別紙1－4
・ 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下）	別紙1－5
・ 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）	別紙1－6
・ 経鼻経管栄養	別紙1－7

(1) 基本研修（演習）評価判定

当該研修受講者が、表4に掲げるすべての行為（救急蘇生法を除く。）ごとに5回以上の演習を実施した上で、②の「基本研修（演習）評価票」のすべての評価項目についての演習指導講師の評価結果が、①の「基本研修（演習）評価判定基準」で示す「ア 評価項目について手順どおりにできている」となった場合に、演習の修了を認めることとし、実施研修については、基本研修の修了が確認された研修受講者に対して行う。

なお、演習の修了が認められなかった受講者については、再度、演習の全課程を受講させる。

① 基本研修（演習）評価判定基準

基本研修（演習）を行った研修受講者ごと、かつ、評価項目ごとについて、次のア～ウの３段階で演習指導講師が評価する。

ア 評価項目について手順どおりに実施できている。
イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。
ウ 評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）

② 基本研修（演習）評価票

・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引（通常手順）	別紙２－１
・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引（非侵襲的人工呼吸療法）	別紙２－２
・喀痰吸引 気管カニューレ（通常手順）	別紙２－３
・喀痰吸引 気管カニューレ（侵襲的人工呼吸療法）	別紙２－４
・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下）	別紙２－５
・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）	別紙２－６
・経鼻経管栄養	別紙２－７

(2) 実地研修評価判定

当該研修受講者が修得すべきすべての行為ごとに、表４に掲げる当該行為の実施回数以上の実地研修を実施した上で、②の「実地研修評価票」のすべての項目について、実地研修指導講師の評価結果が①の「実地研修評価判定基準」で示す手順どおりに実施できているとなった場合であって、次の(a)及び(b)のいずれも満たす場合において、研修修了の是非を判定し修了証明書を交付する。

- | |
|--|
| (a) 当該ケアにおいて最終的な累積成功率が７０％以上であること。 |
| (b) 当該ケアにおいて最終３回のケアの実施において不成功が１回もないこと。 |

なお、実地研修の修了が認められなかった受講者については、再度、実地研修の全課程を受講させる。

① 実地研修評価判定基準

実地研修を行った研修受講者ごと、かつ、評価項目ごとについて、次のア～エの４段階で実地研修指導講師が評価する。

ア	１人で実施できる。 評価項目について手順どおりに実施できている。
イ	１人で実施できる。 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。 実施後に指導した。
ウ	１人で実施できる。 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。 その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
エ	１人での実施を任せられるレベルにはない。

② 実地研修評価票

・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引（通常手順）	別紙３－１
・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引（非侵襲的人工呼吸療法）	別紙３－２
・喀痰吸引 気管カニューレ（通常手順）	別紙３－３
・喀痰吸引 気管カニューレ（侵襲的人工呼吸療法）	別紙３－４
・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下）	別紙３－５
・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）	別紙３－６
・経鼻経管栄養	別紙３－７

別紙1－1～1－7 「評価項目」

別紙1－1		
評価項目：喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引(通常手順)		
実施手順	評価項目	評価の視点
STEP4： 準備	1 医師の指示等の確認を行う	吸引圧・吸引時間・吸引の深さ・留意点等の確認ができているか。
	2 手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	必要物品を把握しているか。 吸引瓶の排液が廃棄されているか。 吸引器の電源を入れ、陰圧がかかるか。
	4 必要物品を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ	吸引器は水平な場所に設置しているか。 使用しやすい位置に物品を置いているか。 吸引器については、電源配置や接続チューブの長さについても確認しているか。
STEP5： 実施	5 実地研修協力者に吸引の説明をする	対象者の協力が得られるように、吸引の必要性や方法などをわかりやすく十分説明しているか。
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	プライバシー保護のため、必要に応じてカーテン・スクリーンをしているか。 できる限り楽で安定した姿勢で吸引チューブを挿入しやすい体位に整えているか。
	7 口腔内・鼻腔内を観察する	口腔内（義歯の状態）・鼻腔内の状態（出血や損傷の有無）・口腔内の分泌物等の貯留物を観察・確認できているか。
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	清潔な手袋の着用やセッシの操作方法が守られているか。
	9 吸引チューブを清潔に取り出す	吸引チューブの先端が周囲に触れないように取り出せているか。
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	吸引チューブの先端が周囲に触れないように扱い、確実に連結管をつなげているか。
	11 （浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	清浄綿等を清潔に取り出せているか。 他の部分に吸引チューブが触れないようにして、清浄綿等で連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 消毒液が確実に拭きとれているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	12 吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	水を吸引して、吸引力を観察し、適切な吸引力の設定を確認できているか。 吸引圧のメーターを確認しているか。
	13 吸引チューブの先端の水をよく切る	吸引チューブの先端から水が垂れていないか。
	14 実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	わかりやすい言葉で協力が得られるよう話しかけ、反応や返答を確認しているか。
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	決められた（指示のあった）吸引圧と深さを守っているか。 挿入の際、吸引チューブの先端が周囲に触れていないか。 粘膜を刺激しないよう静かに挿入しているか。 挿入しにくい時に強引に挿入していないか。
	16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	吸引時間を守っているか。 一か所に吸引圧がかからないように吸引チューブを静かにまわしながら操作できているか。 吸引物や対象者の様子の観察ができているか。
	17 吸引チューブを静かに抜く	粘膜を刺激しないように吸引チューブを抜いているか。
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	清潔に清浄綿等を取り出せているか。 肉眼的に確認できる吸引チューブの外側の付着物を連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	吸引チューブの内側の汚れの除去を確認しているか。
	20 吸引器の電源を切る	
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	吸引チューブを保管容器の中に確実におさめたか。
	22 手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	汚染した手袋が周囲に触れることなく手袋をはずし、廃棄しているか。 セッシを、周囲や容器の縁に触れることなく戻しているか。
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	吸引物の状況を分かりやすく伝え、とりきれたかどうかを確認しているか。 ねぎらいの言葉をかけているか。 呼吸を整えやすい安楽な姿勢に整え、その姿勢でよいかどうかを対象者に確認しているか。
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	吸引した物の量・性状、顔色、呼吸の状態、全身状態、（鼻腔の場合）鼻腔からの出血などについて観察できているか。
	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	吸引前の状態と比較して観察しているか。
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	27 手洗いをする	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
STEP6： 報告	28 吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	研修講師に、吸引した物の量・性状、顔色・呼吸の状態、全身状態、鼻腔からの出血、異常の有無などについて報告できているか。
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか
STEP7： 片付け	31 吸引びんの排液量が70％～80％になる前に排液を捨てる	吸引びんの廃液量の確認が行えているか。 廃液量の交換の必要性を判断できているか。
	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	事故防止、故障予防のために速やかに片づけているか。 使用物品の交換が適切な方法で行えているか。
STEP8： 記録	33 実施記録を記載する	記載事項を把握しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。

別紙1ー2			
評価項目：喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引(人工呼吸器装着者：非侵襲的人工呼吸療法)			
実施手順	評価項目		評価の視点
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	吸引圧・吸引時間・吸引の深さ・吸引の留意点、人工呼吸器装着脱上の留意点の確認ができているか。
	2	手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	必要物品を把握しているか。 吸引瓶の排液が廃棄されているか。 吸引器の電源を入れ、陰圧がかかるか。
	4	必要物品を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ	吸引器は水平な場所に設置しているか。 使用しやすい位置に物品を置いているか。 吸引器については、電源配置や接続チューブの長さについても確認しているか。
STEP5： 実施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする	対象者の協力が得られるように、吸引の必要性や方法などをわかりやすく十分説明しているか。
	6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ブライバシー保護のため、必要に応じてカーテン・スクリーンをしているか。 できる限り楽で安定した姿勢で吸引チューブを挿入しやすい体位に整えているか。
	7	口腔内・鼻腔内を観察する	口腔内（義歯の状態）・鼻腔内の状態（出血や損傷の有無）・口腔内の分泌物等の貯留物、人工呼吸器の作動状況、口鼻マスクの位置、皮膚の状態を観察・確認できているか。 観察時、口鼻マスクを外すまたは鼻マスクに変更するなどの必要がある場合適切に操作できているか。
	8	手袋の着用またはセッシを持つ	清潔な手袋の着用やセッシの操作方法が守られているか。
	9	吸引チューブを清潔に取り出す	吸引チューブの先端が周囲に触れないように取り出せているか。
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	吸引チューブの先端が周囲に触れないように扱い、確実に連結管をつなげているか。
	11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	清浄綿等を清潔に取り出せているか。 他の部分に吸引チューブが触れないようにして、清浄綿等で連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 消毒液が確実に拭きとれているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	12	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	水を吸引して、吸引力を観察し、適切な吸引力の設定を確認できているか。 吸引圧のメーターを確認しているか。
	13	吸引チューブの先端の水をよく切る	吸引チューブの先端から水が垂れていないか。
	14	実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	わかりやすい言葉で協力が得られるよう話しかけ、反応や返答を確認しているか。
	15	口鼻マスクまたは鼻マスクをはすす（注）	口鼻マスクまたは鼻マスクを外すタイミング、外す方法は適切であるか。 外す際に吸引チューブの清潔は保たれているか。
	16	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	決められた（指示のあった）吸引圧と深さを守っているか。 挿入の際、吸引チューブの先端が周囲に触れていないか。 粘膜を刺激しないよう静かに挿入しているか。 挿入しにくい時に強引に挿入していないか。
	17	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	吸引時間を守っているか。 一か所に吸引圧がかからないように吸引チューブを静かにまわしながら操作できているか。 吸引物や対象者の様子の観察ができているか。
	18	吸引チューブを静かに抜く	粘膜を刺激しないように吸引チューブを抜いているか。
	19	口鼻マスク・鼻マスクを適切に戻す（注）	口鼻マスクまたは鼻マスクを外す又は変更した場合、適切に元に戻しているか。
	20	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	清潔に清浄綿等を取り出せているか。 肉眼的に確認できる吸引チューブの外側の付着物を連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	21	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	吸引チューブの内側の汚れの除去を確認しているか。
	22	吸引器の電源を切る	
	23	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	吸引チューブを保管容器の中に確実におさめたか。
	24	手袋をはすす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す	汚染した手袋が周囲に触れることなく手袋をはすし、廃棄しているか。 セッシを、周囲や容器の縁に触れることなく戻しているか。
	25	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	吸引物の状況を分かりやすく伝え、とりきれたかどうかを確認しているか。 ねぎらいの言葉をかけているか。 呼吸を整えやすい安楽な姿勢に整え、その姿勢でよいかどうかを対象者に確認しているか。
	26	人工呼吸器が正常に作動していること・口鼻マスクまたは鼻マスクの装着感が通常通りであることを確認をする	胸の上がり具合を確認して人工呼吸器の正常作動を確認しているか。 固定位置・固定の強さ、皮膚の状態などの観察項目を把握して、確認もれがないか。
	27	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	吸引した物の量・性状、顔色、呼吸の状態、全身状態、（鼻腔の場合）鼻腔からの出血などについて観察できているか。
	28	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	吸引前の状態と比較して観察しているか。
	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	30	手洗いをする	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
STEP6： 報告	31	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	研修講師に、吸引した物の量・性状、顔色・呼吸の状態、全身状態、鼻腔からの出血、異常の有無などについて報告できているか。
	32	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	33	人工呼吸器が正常に作動していること・口鼻マスクまたは鼻マスクの装着感が通常通りであることを報告をする	マスクの着脱に伴う呼吸の変動の可能性もあるため、呼吸状態の異常の有無に加えて、マスクからの空気の漏れ、人工呼吸器回路の異常等について確認できているか。
	34	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか。
STEP7： 片付け	35	吸引びんの排液量が70％～80％になる前に排液を捨てる	吸引びんの廃液量の確認が行えているか。 廃液量の交換の必要性を判断できているか。
	36	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	事故防止、故障予防のために速やかに片づけているか。 使用物品の交換が適切な方法で行えているか。
STEP8： 記録	37	実施記録を記載する	記載事項を把握しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。
（注）口鼻マスクまたは鼻マスクの着脱の手順は、個人差があり、順番が前後することがある。			
※清潔の保持、マスク着脱時の皮膚損傷の予防、確実な呼吸器の装着を確認する。			

別紙1ー3			
		評価項目：喀痰吸引	気管カニューレ内部吸引(通常手順)
実施手順	評価項目		評価の視点
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	吸引圧・吸引時間・吸引の深さ・吸引の留意点、気管カニューレに関する留意点等の確認ができているか。
	2	手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	必要物品を把握しているか。 吸引瓶の排液が廃棄されているか。 吸引器の電源を入れ、陰圧がかかるか。
	4	必要物品を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ	吸引器は水平な場所に設置しているか。 使用しやすい位置に物品を置いているか。 吸引器については、電源配置や接続チューブの長さについても確認しているか。
STEP5： 実施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする	対象者の協力が得られるように、吸引の必要性や方法などをわかりやすく十分説明しているか。
	6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	プライバシー保護のため、必要に応じてカーテン・スクリーンをしているか。 できる限り楽で安定した姿勢で吸引チューブを挿入しやすい体位に整えているか。
	7	気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する	口腔内（義歯の状態）・鼻腔内の状態（出血や損傷の有無）・口腔内の分泌物等の貯留物に加えて気管カニューレ周囲や固定の状態を確実に観察・確認できているか。
	8	手袋の着用またはセッシーを持つ	清潔な手袋の着用やセッシーの操作方法が守られているか。
	9	吸引チューブを清潔に取り出す	吸引チューブの先端が周囲に触れないように取り出せているか。
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	吸引チューブの先端が周囲に触れないように扱い、確実に連結管をつなげているか。
	11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	清浄綿等を清潔に取り出せているか。 他の部分に吸引チューブが触れないようにして、清浄綿等で連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 消毒液が確実に拭きとれているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	12	吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	水を吸引して、吸引力を観察し、適切な吸引力の設定を確認できているか。吸引圧のメーターを確認しているか。
	13	吸引チューブ先端の水をよく切る	吸引チューブの先端から水が垂れていないか。
	14	実地研修協力者に吸引開始について声をかけを行う	わかりやすい言葉で協力が得られるよう話しかけ、反応や返答を確認しているか。
	15	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	気管カニューレの長さ以上まで挿入しないよう所定の深さを守っているか。
	16	適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	吸引時間を守っているか。 一か所に吸引圧がかからないように吸引チューブを静かにまわしながら操作できているか。 吸引物や対象者の様子の観察ができているか。
	17	吸引チューブを静かに抜く	粘膜を刺激しないように吸引チューブを抜いているか。
	18	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	清潔に清浄綿等を取り出せているか。 肉眼的に確認できる吸引チューブの外側の付着物を連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	19	滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	吸引チューブの内側の汚れの除去を確認しているか。
	20	吸引器の電源を切る	
	21	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	吸引チューブを保管容器の中に確実におさめたか、または単回使用の場合は破棄したか。
	22	手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシーを戻す	汚染した手袋が周囲に触れることなく手袋をはずし、廃棄しているか。 セッシーを、周囲や容器の縁に触れることなく戻しているか。
	23	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	吸引物の状況を分かりやすく伝え、とりきれたかどうかを確認しているか。 ねぎらいの言葉をかけているか。 呼吸を整えやすい安楽な姿勢に整え、その姿勢でよいかどうかを対象者に確認しているか。
	24	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	吸引した物の量・性状、顔色・呼吸の状態、全身状態などについて観察できているか。 呼吸状態および気管カニューレや固定状態等の観察項目を把握しているか。 観察もれはないか。
	25	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	吸引前の状態と比較して観察しているか。
	26	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	27	手洗いをする	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
STEP6： 報告	28	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	研修講師に、吸引した物の量・性状、顔色・呼吸の状態、全身状態、鼻腔からの出血、異常の有無などについて報告できているか。
	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	30	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか。
STEP7： 片付け	31	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	吸引びんの廃液量の確認が行えているか。 廃液量の交換の必要性を判断できているか。
	32	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	事故防止、故障予防のために速やかに片づけているか。 使用物品の交換が適切な方法で行えているか。
STEP8： 記録	33	実施記録を記載する	記載事項を把握しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。

別紙1ー4			
評価項目：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引(人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法)			
実施手順	評価項目		評価の視点
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	吸引圧・吸引時間・吸引の深さ・吸引の留意点、人工呼吸器装着脱上の留意点等の確認ができているか。
	2	手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	必要物品を把握しているか。 吸引瓶の排液が廃棄されているか。 吸引器の電源を入れ、陰圧がかかるか。
	4	必要物品を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ	吸引器は水平な場所に設置しているか。 使用しやすい位置に物品を置いているか。 吸引器については、電源配置や接続チューブの長さについても確認しているか。
STEP5： 実施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする	対象者の協力が得られるように、吸引の必要性や方法などをわかりやすく十分説明しているか。
	6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	プライバシー保護のため、必要に応じてカーテン・スクリーンをしているか。 できる限り楽で安定した姿勢で吸引チューブを挿入しやすい体位に整えているか。
	7	気管カニューレ周囲や固定の状態、人工呼吸器の作動状況を観察する	口腔内（義歯の状態）・鼻腔内の状態（出血や損傷の有無）・口腔内の分泌物等の貯留物に加えて気管カニューレ周囲や固定の状態、人工呼吸器の作動状況を観察・確認できているか。
	8	手袋の着用またはセッシを持つ	清潔な手袋の着用やセッシの操作方法が守られているか。
	9	吸引チューブを清潔に取り出す	吸引チューブの先端が周囲に触れないように取り出せているか。
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	吸引チューブの先端が周囲に触れないように扱い、確実に連結管をつなげているか。
	11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	清浄綿等を清潔に取り出せているか。 他の部分に吸引チューブが触れないようにして、清浄綿等で連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 消毒液が確実に拭きとれているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	12	吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	滅菌精製水を吸引して、吸引力を観察し、適切な吸引力の設定を確認できているか。 吸引圧のメーターを確認しているか。
	13	吸引チューブ先端の水をよく切る	吸引チューブの先端から水が垂れていないか。
	14	実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	わかりやすい言葉で協力が得られるよう話しかけ、反応や返答を確認しているか。
	15	人工呼吸器の接続を外す	人工呼吸器の接続は吸気を確認して適切なタイミング、方法で外しているか。 気管カニューレを抑えすぎたり引っ張りすぎていないか。 外した後の回路の清潔は保たれているか。 外す際に吸引チューブの清潔は保たれているか。
	16	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	気管カニューレの長さ以上まで挿入しないよう所定の深さを守っているか。
	17	適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	吸引時間を守っているか。 一か所に吸引圧がかからないように吸引チューブを静かにまわしながら操作できているか。 吸引物や対象者の様子の観察ができているか。
	18	吸引チューブを静かに抜く	粘膜を刺激しないように吸引チューブを抜いているか。
	19	人工呼吸器の接続を元に戻す	人工呼吸器の接続は、確実かつ清潔に元に戻しているか。
	20	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	清潔に清浄綿等を取り出せているか。 肉眼的に確認できる吸引チューブの外側の付着物を連結部から先端に向かって拭きとることができているか。 使用した清浄綿等は、1回ごとに廃棄しているか。
	21	滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	吸引チューブの内側の汚れの除去を確認しているか。
	22	吸引器の電源を切る	
	23	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	吸引チューブを保管容器の中に確実におさめたか、または単回使用の場合は破棄したか。
	24	手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す	汚染した手袋が周囲に触れることなく手袋をはずし、廃棄しているか。 セッシを、周囲や容器の縁に触れることなく戻しているか。
	25	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	吸引物の状況を分かりやすく伝え、とりきれたかどうかを確認しているか。 ねぎらいの言葉をかけているか。 呼吸を整えやすい安楽な姿勢に整え、その姿勢でよいかどうかを対象者に確認しているか。
	26	人工呼吸器が正常に作動していることを確認する	胸の上がり具合を確認して人工呼吸器および回路の正常作動を確認しているか。 人工呼吸器の着脱に伴う呼吸の変動の可能性もあるため、呼吸状態の異常の有無や、コネクター接続部からの空気の漏れ、人工呼吸器回路の異常等について確認できているか。
	27	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	吸引した物の量・性状、顔色・呼吸の状態、全身状態などについて観察できているか。 呼吸状態および気管カニューレや固定状態等の観察項目を把握しているか。 観察もれはないか。
	28	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	吸引前の状態と比較して観察しているか。
	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	30	手洗いをする	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
STEP6： 報告	31	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	研修講師に、吸引した物の量・性状、顔色・呼吸の状態、全身状態、鼻腔からの出血、異常の有無などについて報告できているか。
	32	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	
	33	人工呼吸器が正常に作動していることを報告する	
	34	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか。
STEP7： 片付け	35	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	吸引びんの廃液量の確認が行えているか。 廃液量の交換の必要性を判断できているか。
	36	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	事故防止、故障予防のために速やかに片付けているか。 使用物品の交換が適切な方法で行えているか。
STEP8： 記録	37	実施記録を記載する	記載事項を把握しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。確実な呼吸器の装着・確認をする。

別紙1－5			
評価項目：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養			
実施手順	評価項目		評価の視点
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	注入物・注入量・注入時間・留意点等の確認ができているか。
	2	手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3	必要な物品を準備する	必要部品が準備できているか。 使用物品の状況を観察し、劣化、漏れ、汚染状況を観察しているか。
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	氏名・経管栄養剤の内容と量・有効期限・注入開始時間・注入時間を確認できているか。
	5	経管栄養の注入準備を行う	栄養剤は本人のものであることを確認しているか。 栄養剤を適温にできているか。 栄養点滴チューブ内の空気を排除し準備しているか。 イルリガートル（ボトル）のふたは確実に閉めているか。
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに連ぶ	栄養剤が本人のものであることを確認できているか。
STEP5： 実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	意識レベルの低い場合でも、実地研修協力者に処置の説明を行っているか。
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	栄養剤が実地研修協力者本人のものであるか確認できているか。 適切な体位をとれているか。 接続部より50cm以上高い所にイルリガートル（ボトル）の液面があるか。
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	経管栄養チューブが、ねじれたり折れたりしていないか、固定が外れていないかを確認しているか。 外れないように接続できているか。
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	実地研修協力者の状態に異常がないか確認しているか。 滴下速度は指示されたとおりであるか。
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	全身状態の観察ができているか。 むせこみ、表情の変化などの観察を行っているか。
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	適切な体位を維持できているか。
	13	注入物の滴下の状態を観察する	注入物の滴下が適切かどうか、観察できているか。
	14	挿入部からの栄養剤（流動食）のもれを確認する。	挿入部の異常の有無（もれの兆候等）を確認しているかどうか。
	15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	注入中に実地研修協力者が気分不快、腹部ぼろ満感、おう気・おう吐などを訴えていないかを確認できているか。 異常を発見した場合は研修講師に連絡し、対応できているか。
	16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	注入終了後に、白湯を注入しているか。 実地研修協力者の状態を観察しているか。
STEP6： 報告	17	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	クレンメを確実に閉め、接続を外す際は、チューブを抜かないように注意しているか。 半坐位の状態を保持しているか。
	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	研修講師に、腹部ぼろ満感、おう気・おう吐・腹痛、呼吸困難や表情の変化など観察し、報告ができているか。
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	おう吐を誘発する可能性もあり、観察し報告できているか。
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか。
STEP7： 片付け	21	環境を汚染させないよう使用物品を速やかに後片付けする	使用物品は決められた方法で洗浄・消毒を行っているか。 環境を汚染していないか。
STEP8： 記録	22	実施記録を記載する	実施時刻、栄養剤（流動食）の種類、量等について記録しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。

別紙1ー6			
評価項目：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）			
実施手順	評価項目		評価の視点
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	注入物・注入量・注入時間・留意点等の確認ができているか。
	2	手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3	必要な物品を準備する	必要部品が準備できているか。 使用物品の状況を観察し、劣化、漏れ、汚染状況を観察しているか。
	4	指示された栄養剤（半固形）の種類・量・時間を確認する	氏名・経管栄養剤の内容と量・有効期限・注入開始時間・注入時間を確認できているか。
	5	経管栄養の注入準備を行う	栄養剤は本人のものであることを確認しているか。 栄養剤を適温にできているか。 胃ろうチューブがボタン型の場合、接続チューブを半固形栄養剤のバッグまたは半固形栄養剤を吸ったカテーテルチップシリンジに接続し、チューブ内を栄養剤で満たし空気を排除し準備しているか。
	6	準備した栄養剤（半固形）を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ	栄養剤が本人のものであることを確認ができているか。
STEP5： 実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	意識レベルの低い場合でも、実地研修協力者に処置の説明を行っているか。
	8	注入する栄養剤（半固形）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	栄養剤が実地研修協力者本人のものであるか確認できているか。 適切な体位をとれているか。
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	経管栄養チューブが、ねじれたり折れたりしていないか、固定が外れていないかを確認しているか。 外れないように接続できているか。
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	実地研修協力者の状態に異常がないか確認しているか。 注入速度は指示されたとおりであるか。
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	全身状態の観察ができているか。 むせこみ、表情の変化などの観察を行っているか。
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	適切な体位を維持できているか。
	13	注入物の注入の状態を観察する	注入物の注入が適切かどうか、観察できているか。
	14	挿入部からの栄養剤（半固形）のもれを確認する。	挿入部の異常の有無（もれの兆候等）を確認しているかどうか。
	15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	注入中に実地研修協力者が気分不快、腹部ぼろ満感、おう気・おう吐などを訴えていないかを確認できているか。 異常を発見した場合は研修講師に連絡し、対応できているか。
	16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	注入終了後に、白湯を注入しているか。 実地研修協力者の状態を観察しているか。
STEP6： 報告	17	経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	接続を外す際は、チューブを抜去しないように注意しているか。 半坐位の状態を保持しているか。
	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	研修講師に、腹部ぼろ満感、おう気・おう吐・腹痛、呼吸困難や表情の変化など観察し、報告ができているか。
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	おう吐を誘発する可能性もあり、観察し報告できているか。
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか。
STEP7： 片付け	21	環境を汚染させないよう使用物品を速やかに後片付けする	使用物品は決められた方法で洗浄・消毒を行っているか。 環境を汚染していないか。
STEP8： 記録	22	実施記録を記載する	実施時刻、栄養剤（半固形）の種類、量等について記録しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。

別紙1ー7			
評価項目：経鼻経管栄養			
実施手順	評価項目		評価の視点
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	注入物・注入量・注入時間・留意点等の確認ができているか。
	2	手洗いをを行う	石鹸と流水またはすりこみ式のアルコール製剤により手指を清潔にしているか。 手洗い方法が守られているか。
	3	必要な物品を準備する	必要部品が準備できているか。 使用物品の状況を観察し、劣化、漏れ、汚染状況を観察しているか。
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	氏名・経管栄養剤の内容と量・有効期限・注入開始時間・注入時間を確認できているか。
	5	経管栄養の注入準備を行う	栄養剤は本人のものであることを確認しているか。 栄養剤を適温にできているか。 栄養点滴チューブ内の空気を排除し準備しているか。 イルリガートル（ボトル）のふたは確実に閉めているか。
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ	栄養剤が本人のものであることを確認ができているか。
STEP5： 実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	意識レベルの低い場合でも、実地研修協力者に処置の説明を行っているか。
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	栄養剤が実地研修協力者本人のものであるか確認できているか。 適切な体位をとれているか。 接続部より50cm以上高い所にイルリガートル（ボトル）の液面があるか。
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	経管栄養チューブが、ねじれたり折れたりしていないか、固定が外れていないかを確認しているか。 外れないように接続できているか。
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	実地研修協力者の状態に異常がないか確認しているか。 滴下速度は指示されたとおりであるか。
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	全身状態の観察ができているか。 むせこみ、表情の変化などの観察を行っているか。
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	適切な体位を維持できているか。
	13	注入物の滴下の状態を観察する	注入物の滴下が適切かどうか、観察できているか。
	14	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	注入中に実地研修協力者が気分不快、腹部ぼう満感、おう気・おう吐などを訴えていないかを確認できているか。 異常を発見した場合は研修講師に連絡し、対応できているか。
	15	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	注入終了後に、白湯を注入しているか。 実地研修協力者の状態を観察しているか。
	16	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	クレンメを確実に閉め、接続を外す際は、チューブを抜かないように注意しているか。 半坐位の状態を保持しているか。
STEP6： 報告	17	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	研修講師に、腹部ぼう満感、おう気・おう吐・腹痛、呼吸困難や表情の変化など観察し、報告ができているか。
	18	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	おう吐を誘発する可能性もあり、観察し報告できているか。
	19	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	手順のミスや対象者のいつもと違った変化について、正確に報告ができているか。
STEP7： 片付け	20	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	使用物品は決められた方法で洗浄・消毒を行っているか。 環境を汚染していないか。
STEP8： 記録	21	実施記録を記載する	実施時刻、栄養剤（流動食）の種類、量等について記録しているか。 記載もれはないか。 適切な内容の記載ができているか。

別紙2－1～2－7 「基本研修(演習)評価票」

基本研修（演習）評価票：喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引(通常手順)

評価判定基準	ア	評価項目について手順どおりに実施できている。	記載例	研修受講者	受講番号			
	イ	評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。		氏名				
	ウ	評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）		本票ページ数	/			
回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。			(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日 ※演習を実施した月日を記入すること。			10/11	/	/	/	/	/
時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。			13:15					
実施手順	評価項目		評価結果	評価結果				
STEP4：準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア					
	2	手洗いを行う	ア					
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4	必要物品を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ	ア					
STEP5：実施	吸引の実施	5	利用者に吸引の説明をする	ア				
		6	吸引の環境・利用者の姿勢を整える	ア				
		7	口腔内・鼻腔内を観察する	ア				
		8	手袋の着用またはセッシを持つ	ア				
		9	吸引チューブを清潔に取り出す	ア				
		10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア				
		11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア				
		12	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア				
		13	吸引チューブの先端の水をよく切る	ア				
		14	利用者に吸引開始について声かけを行う	ア				
		15	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア				
		16	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア				
		17	吸引チューブを静かに抜く	ア				
		18	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	イ				
		19	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア				
		20	吸引器の電源を切る	ア				
		21	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア				
	22	手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	ア					
	23	利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	24	吸引物及び利用者の状態を観察する	ア					
25	利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア						
STEP6：報告	26	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
	27	手洗いをする	ウ					
	28	吸引物及び利用者の状態を報告する	ア					
STEP7：片付け	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
	30	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ー					
	31	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
STEP8：記録	32	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア					
	33	実施記録を記載する	ア					
アの個数 計			30					

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー1の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

別紙2ー2（不特定多数の者を対象とする研修[第1号研修及び第2号研修]

基本研修（演習）評価票：喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引(人工呼吸器装着者：非侵襲的人工呼吸療法)

評価判定基準

ア 評価項目について手順どおりに実施できている。

イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。

ウ 評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）

記載例

研修受講者

受講番号

氏 名

本票ページ数

/

回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。

(/)回目

()回目

()回目

()回目

()回目

()回目

月日 ※演習を実施した月日を記入すること。

10/11

/

/

/

/

/

時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。

13:15

実施手順

評価項目

評価結果

評価結果

STEP4：準備

1 医師の指示等の確認を行う

ア

2 手洗いをを行う

ア

3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する

ア

4 必要物品を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ

ア

STEP5：実施

5 利用者に吸引の説明をする

ア

6 吸引の環境・利用者の姿勢を整える

ア

7 口腔内・鼻腔内を観察する

ア

8 手袋の着用またはセッシを持つ

ア

9 吸引チューブを清潔に取り出す

ア

10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する

ア

11 （浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く

ア

12 吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する

ア

13 吸引チューブの先端の水をよく切る

ア

14 利用者に吸引開始について声かけを行う

ア

15 口鼻マスクまたは鼻マスクをはすす（注）

ア

16 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する

ア

17 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する

ア

18 吸引チューブを静かに抜く

ア

19 口鼻マスク・鼻マスクを適切に戻す（注）

ア

20 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く

ア

21 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす

イ

22 吸引器の電源を切る

ア

23 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す

ア

24 手袋をはすす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す

ア

25 利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える

ア

26 人工呼吸器が正常に作動していること・口鼻マスクまたは鼻マスクの装着感が通常通りであることを確認をする

ア

27 吸引物及び利用者の状態を観察する

ア

28 利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する

ア

29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）

ア

30 手洗いをする

ウ

STEP6：報告

31 吸引物及び利用者の状態を報告する

ア

32 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）

ア

33 人工呼吸器が正常に作動していること・口鼻マスクまたは鼻マスクの装着感が通常通りであることを報告をする

ア

34 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）

—

STEP7：片付け

35 吸引びんの排液量が70％～80％になる前に排液を捨てる

ア

36 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する

ア

STEP8：記録

37 実施記録を記載する

ア

アの個数 計

34

（注）口鼻マスクまたは鼻マスクの着脱の手順は、個人差があり、順番が前後することがある。
※清潔の保持、マスク着脱時の皮膚損傷の予防、確実な呼吸器の装着を確認する。

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー2の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目

()回目

()回目

()回目

()回目

別紙2ー3（不特定多数の者を対象とする研修[第1号研修及び第2号研修]

基本研修（演習）評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引(通常手順)

評価判定基準

ア 評価項目について手順どおりに実施できている。

イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。

ウ 評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）

記載例

研修受講者

受講番号

氏 名

本票ページ数

/

回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。

（ / ）回目（ ）回目（ ）回目（ ）回目（ ）回目（ ）回目

月日 ※演習を実施した月日を記入すること。

10/11/ / / / / /

時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。

13:15/ / / / / /

実施手順

評価項目

評価結果

評価結果

STEP4：準備

1 医師の指示等の確認を行う

ア

2 手洗いを行う

ア

3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する

ア

4 必要物品を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ

ア

STEP5：実施

5 利用者に吸引の説明をする

ア

6 吸引の環境・利用者の姿勢を整える

ア

7 気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する

ア

8 手袋の着用またはセッシを持つ

ア

9 吸引チューブを清潔に取り出す

ア

10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する

ア

11 （浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く

ア

12 吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する

ア

13 吸引チューブ先端の水をよく切る

ア

14 利用者に吸引開始について声かけを行う

ア

15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する

ア

16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する

ア

17 吸引チューブを静かに抜く

ア

18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く

イ

19 滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす

ア

20 吸引器の電源を切る

ア

21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する

ア

22 手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す

ア

23 利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える

ア

24 吸引物及び利用者の状態を観察する

ア

25 利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する

ア

26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）

ア

27 手洗いをする

ウ

STEP6：報告

28 吸引物及び利用者の状態を報告する

ア

29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）

ア

30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）

ー

STEP7：片付け

31 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる

ア

32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する

ア

STEP8：記録

33 実施記録を記載する

ア

アの個数 計

30

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー3の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

（ ）回目

（ ）回目

（ ）回目

（ ）回目

（ ）回目

別紙2ー4（不特定多数の者を対象とする研修[第1号研修及び第2号研修]

基本研修（演習）評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引(人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法)

評価判定基準

ア

イ

ウ

評価項目について手順どおりに実施できている。

評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。

評価項目を抜かした。(手順どおりに実施できなかった。)

記載例

研修受講者

受講番号

氏名

本票ページ数

/

回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。

月日 ※演習を実施した月日を記入すること。

時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。

()回目

()回目

()回目

()回目

()回目

()回目

10/11

/

/

/

/

/

13:15

実施手順

評価項目

評価結果

評価結果

STEP4：準備

1

2

3

4

医師の指示等の確認を行う

手洗いをを行う

必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する

必要物品を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ

ア

ア

ア

ア

STEP5：実施

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

利用者に吸引の説明をする

吸引の環境・利用者の姿勢を整える

気管カニューレ周囲や固定の状態、人工呼吸器の作動状況を観察する

手袋の着用またはセッシを持つ

吸引チューブを清潔に取り出す

吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する

（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く

吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する

吸引チューブ先端の水をよく切る

利用者に吸引開始について声かけを行う

人工呼吸器の接続を外す

適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する

適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する

吸引チューブを静かに抜く

人工呼吸器の接続を元に戻す

吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く

滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす

吸引器の電源を切る

吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する

手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す

利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える

人工呼吸器が正常に作動していることを確認する

吸引物及び利用者の状態を観察する

利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する

吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）

手洗いをする

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

イ

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

ウ

STEP6：報告

31

32

33

34

吸引物及び利用者の状態を報告する

吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）

人工呼吸器が正常に作動していることを報告する

ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）

ア

ア

ア

ー

STEP7：片付け

35

36

吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる

使用物品を速やかに後片付けまたは交換する

ア

ア

STEP8：記録

37

実施記録を記載する

ア

アの個数 計

34

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。確実な呼吸器の装着・確認をする。

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー4の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目

()回目

()回目

()回目

()回目

基本研修（演習）評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養

評価判定基準	ア	評価項目について手順どおりに実施できている。	記載例	研修受講者	受講番号			
	イ	評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。		氏名				
	ウ	評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）		本票ページ数	/			
回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。			(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日 ※演習を実施した月日を記入すること。			10/11	/	/	/	/	/
時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。			13:15					
実施手順	評価項目		評価結果	評価結果				
STEP4: 準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア					
	2	手洗いをを行う	ウ					
	3	必要な物品を準備する	ア					
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア					
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア					
	6	準備した栄養剤（流動食）を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ	ア					
STEP5: 実施	経管 栄養 の 実 施	7	利用者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア				
		8	注入する栄養剤（流動食）が利用者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	イ				
		9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
		10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
		11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
		12	注入中の利用者の体位を観察する	ア				
		13	注入物の滴下の状態を観察する	ア				
		14	挿入部からの栄養剤（流動食）のもれを確認する。	ア				
		15	注入中に利用者の状態を観察する	ア				
		16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア				
		17	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア				
STEP6: 報告	18	注入後、利用者の状態を観察し、報告する	ア					
	19	体位交換が必要な利用者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア					
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	—					
STEP7: 片付け	21	環境を汚染させないよう使用物品を速やかに後片付けする	ア					
STEP8: 記録	22	実施記録を記載する	ア					
アの個数 計			19					

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー5の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

別紙2ー6（不特定多数の者を対象とする研修[第1号研修及び第2号研修]

基本研修（演習）評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養(半固形栄養剤)

評価判定基準	ア	評価項目について手順どおりに実施できている。	記載例	研修受講者	受講番号	
	イ	評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。		氏名		
	ウ	評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）		本票ページ数	/	

回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。

（ / ）回目（ ）回目（ ）回目（ ）回目（ ）回目（ ）回目

月日 ※演習を実施した月日を記入すること。

10/11 / / / / /

時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。

13：15

実施手順	評価項目	評価結果	評価結果					
STEP4：準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ウ						
	3 必要な物品を準備する	ア						
	4 指示された栄養剤（半固形）の種類・量・時間を確認する	ア						
	5 経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6 準備した栄養剤（半固形）を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ	ア						
STEP5：実施	7 利用者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8 注入する栄養剤（半固形）が利用者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	イ						
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	経管栄養の実施	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア					
		11 注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
		12 注入中の利用者の体位を観察する	ア					
		13 注入物の注入の状態を観察する	ア					
		14 挿入部からの栄養剤（半固形）のものを確認する。	ア					
		15 注入中に利用者の状態を観察する	ア					
		16 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
		17 経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア					
STEP6：報告	18 注入後、利用者の状態を観察し、報告する	ア						
	19 体位交換が必要な利用者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア						
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	—						
STEP7：片付け	21 環境を汚染させないよう使用物品を速やかに後片付けする	ア						
STEP8：記録	22 実施記録を記載する	ア						
アの個数 計		19						

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー6の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

（ ）回目	
（ ）回目	
（ ）回目	
（ ）回目	
（ ）回目	

基本研修（演習）評価票：経鼻経管栄養

評価判定基準	ア	評価項目について手順どおりに実施できている。	記載例	研修受講者	受講番号	
	イ	評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。			氏 名	
	ウ	評価項目を抜かした。（手順どおりに実施できなかった。）		本票ページ数		/

回数 ※（ ）内に演習の実施回数を記入すること。	(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日 ※演習を実施した月日を記入すること。	10/11	/	/	/	/	/
時間 ※演習を実施した時刻を記入すること。	13:15					

実施手順		評価項目	評価結果	評価結果					
STEP4： 準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア						
	2	手洗いを行う	ウ						
	3	必要な物品を準備する	ア						
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア						
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6	準備した栄養剤（流動食）を利用者（演習シミュレーター）のもとに運ぶ	ア						
STEP5： 実施	7	利用者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8	注入する栄養剤（流動食）が利用者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	イ						
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア						
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア						
	12	注入中の利用者の体位を観察する	ア						
	13	注入物の滴下の状態を観察する	ア						
	14	注入中に利用者の状態を観察する	ア						
	15	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア						
	16	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア						
STEP6： 報告	17	注入後、利用者の状態を観察し、報告する	ア						
	18	体位交換が必要な利用者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア						
	19	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	—						
STEP7： 片付け	20	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア						
STEP8： 記録	21	実施記録を記載する	ア						
アの個数 計			18						

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー7の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

別紙3－1～3－7 「実地研修評価票」

別紙3-1（不特定多数の者を対象とする研修[第1号研修及び第2号研修]

実地研修評価票:喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引(通常手順)

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。		研修受講者	受講番号	(会場)	
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)			氏 名		
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)					
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。			本票ページ数	/	

回数 ※()内に実地研修の実施回数を記入すること。		(/)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。		10/11	/	/	/	/	/
時間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。		13:15					

実施手順	評価項目	評価結果	評価結果					
STEP4:準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いを行う	ア						
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア						
	4 必要物品を実地研修協力者のもとの運ぶ	ア						
STEP5:実施	5 実地研修協力者に吸引の説明をする	ア						
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア						
	7 口腔内・鼻腔内を観察する	ア						
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア						
	吸引の実施	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
		10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
		11 (浸漬法の場合) 吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
		12 吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
		13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア					
		14 実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア					
		15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
		16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
		17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	イ						
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア						
	20 吸引器の電源を切る	ア						
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア						
	22 手袋をはずす(手袋を使用している場合)またはセッシを戻す	ア						
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア						
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア						
	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア						
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア						
	27 手洗いをする	ウ						
	STEP6:報告	28 吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア					
		29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア					
		30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	ー					
	STEP7:片付け	31 吸引びんの排液量が70%~80%になる前に排液を捨てる	ア					
32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する		ア						
STEP8:記録	33 実施記録を記載する	ア						
アの個数 計		30						

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1-1の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

別紙3ー2（不特定多数の者を対象とする研修[第1号研修及び第2号研修]																
実地研修評価票:喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引(人工呼吸器装着者:非侵襲的人工呼吸療法)																
評価判定基準		ア 評価項目について手順どおり実施できている。								研修受講者	受講番号	(会場)				
		イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)									氏 名					
		ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)														
		エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。														
										本票ページ数		／				
回数 ※()内に実地研修の実施回数を記入すること。										(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	
月 日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。										10/11	／	／	／	／	／	
時間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。										13:15						
実施手順		評価項目								評価結果		評価結果				
STEP4 : 準備	1	医師の指示等の確認を行う								ア						
	2	手洗いを行う								ア						
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する								ア						
	4	必要物品を実地研修協力者のもとのに運ぶ								ア						
STEP5 : 実施	吸 引 の 実 施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする								ア					
		6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える								ア					
		7	口腔内・鼻腔内を観察する								ア					
		8	手袋の着用またはセ션을持つ								ア					
		9	吸引チューブを清潔に取り出す								ア					
		10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する								ア					
		11	(浸漬法の場合)吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く								ア					
		12	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する								ア					
		13	吸引チューブの先端の水をよく切る								ア					
		14	実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う								ア					
	20 以下	15	口鼻マスクまたは鼻マスクをはすず(注)								ア					
		16	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する								ア					
		17	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する								ア					
		18	吸引チューブを静かに抜く								ア					
		19	口鼻マスク・鼻マスクを適切に戻す(注)								ア					
		20	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く								ア					
		21	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす								イ					
		22	吸引器の電源を切る								ア					
		23	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す								ア					
		24	手袋をはすず(手袋を着用している場合)またはセ션을戻す								ア					
		25	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える								ア					
		26	人工呼吸器が正常に作動していること・口鼻マスクまたは鼻マスクの装着感が通常通りであることを確認をする								ア					
		27	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する								ア					
		28	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する								ア					
		29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)								ア					
		30	手洗いをする								ウ					
STEP6 : 報告	31	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する								ア						
	32	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)								ア						
	33	人工呼吸器が正常に作動していること・口鼻マスクまたは鼻マスクの装着感が通常通りであることを報告をする								ア						
	34	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)								—						
STEP7 : 片付け	35	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる								ア						
	36	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する								ア						
STEP8 : 記録	37	実施記録を記載する								ア						
アの個数 計										34						
(注)口鼻マスクまたは鼻マスクの着脱の手順は、個人差があり、順番が前後することがある。 ※清潔の保持、マスク着脱時の皮膚損傷の予防、確実な呼吸器の装着を確認する。																
自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー2の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。																
()回目																
()回目																
()回目																
()回目																
()回目																

実地研修評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引（通常手順）

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。	研修受講者	受講番号	(会場)
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)		氏 名	
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)			
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。		本票ページ数	/

回数 ※（ ）内に実地研修の実施回数を記入すること。		()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月 日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。		10/11	/	/	/	/	/
時間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。		13:15					
実施手順	評価項目	評価結果	評価結果				
STEP4：準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いを行う	ア					
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4 必要物品を実地研修協力者のもとのに運ぶ	ア					
STEP5：実施	5 実地研修協力者に吸引の説明をする	ア					
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア					
	7 気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する	ア					
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア					
	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
	11 (浸漬法の場合) 吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
	12 吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
	13 吸引チューブ先端の水をよく切る	ア					
	14 実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア					
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
	16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
	17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	イ					
	19 滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア					
	20 吸引器の電源を切る	ア					
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	ア					
	22 手袋をはずす(手袋を着用している場合)またはセッシを戻す	ア					
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア					
STEP6：報告	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア					
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア					
	27 手洗いをする	ウ					
	28 吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア					
STEP7：片付け	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア					
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	-					
	31 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
STEP8：記録	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア					
	33 実施記録を記載する	ア					
アの個数 計		30					

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1-3の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

実地研修評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引（人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法）

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。	研修受講者	受講番号	(会場)
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)		氏 名	
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)			
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。			
		本票ページ数		/

回数 ※ () 内に実地研修の実施回数を記入すること。	() 回目	() 回目	() 回目	() 回目	() 回目	() 回目
月日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。	10 / 11	/	/	/	/	/
時間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。	13 : 15					

実施手順	評価項目		評価結果	評価結果				
STEP4 : 準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア					
	2	手洗いをを行う	ア					
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4	必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア					
STEP5 : 実施	吸引の実施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする	ア				
		6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア				
		7	気管カニューレ周囲や固定の状態、人工呼吸器の作動状況を観察する	ア				
		8	手袋の着用またはセッションを持つ	ア				
		9	吸引チューブを清潔に取り出す	ア				
		10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア				
		11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア				
		12	吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア				
		13	吸引チューブ先端の水をよく切る	ア				
		14	実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア				
		15	人工呼吸器の接続を外す	ア				
		16	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア				
		17	適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	ア				
		18	吸引チューブを静かに抜く	ア				
		19	人工呼吸器の接続を元に戻す	ア				
		20	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア				
		21	滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	イ				
		22	吸引器の電源を切る	ア				
	23	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	ア					
	24	手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッションを戻す	ア					
	25	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	26	人工呼吸器が正常に作動していることを確認する	ア					
	27	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア					
	28	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア					
	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
	30	手洗いをする	ウ					
	STEP6 : 報告	31	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア				
		32	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア				
33		人工呼吸器が正常に作動していることを報告する	ア					
34		ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	—					
STEP7 : 片付け	35	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
	36	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア					
STEP8 : 記録	37	実施記録を記載する	ア					
アの個数 計			34					

※気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。確実な呼吸器の装着・確認をする。

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1－4の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

() 回目	
() 回目	
() 回目	
() 回目	
() 回目	

実地研修評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。	研修受講者	受講番号	(会場)
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)		氏 名	
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)			
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。			
本票ページ数		/		

回数 ※()内に実地研修の実施回数を記入すること。		(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月 日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。		10/11	/	/	/	/	/
時 間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。		13:15					
実施手順	評価項目	評価結果	評価結果				
STEP4：準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いをを行う	ウ					
	3 必要な物品を準備する	ア					
	4 指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア					
	5 経管栄養の注入準備を行う	ア					
	6 準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア					
STEP5：実施	7 実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア					
	8 注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	イ					
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア					
	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア					
	11 注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
	12 注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア					
	13 注入物の滴下の状態を観察する	ア					
	14 挿入部からの栄養剤（流動食）のもれを確認する。	ア					
	15 注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア					
	16 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
	17 クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア					
STEP6：報告	18 注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア					
	19 体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア					
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	—					
STEP7：片付け	21 環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア					
STEP8：記録	22 実施記録を記載する	ア					
アの個数 計		19					

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー5の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

実地研修評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。	研修受講者	受講番号	(会場)
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)		氏 名	
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)	本票ページ数		
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。	／		

回数 ※()内に実地研修の実施回数を記入すること。						(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。						10/11	/	/	/	/	/
時間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。						13:15					

実施手順		評価項目	評価結果	評価結果							
STEP4：準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア								
	2	手洗いをを行う	ウ								
	3	必要な物品を準備する	ア								
	4	指示された栄養剤（半固形）の種類・量・時間を確認する	ア								
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア								
	6	準備した栄養剤（半固形）を実地研修協力者のもとのに運ぶ	ア								
STEP5：実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア								
	8	注入する栄養剤（半固形）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	イ								
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア								
	経管栄養の実施	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア							
		11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア							
		12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア							
		13	注入物の注入の状態を観察する	ア							
		14	挿入部からの栄養剤（半固形）のもれを確認する。	ア							
		15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア							
		16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア							
		17	経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア							
STEP6：報告	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア								
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア								
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ー								
STEP7：片付け	21	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア								
STEP8：記録	22	実施記録を記載する	ア								
アの個数 計			19								

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1ー6の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

実地研修評価票：経鼻経管栄養											
評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。					研修受講者	受講番号	(会場)			
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)						氏 名				
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)					本票ページ数		/			
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。										
回数 ※()内に実地研修の実施回数を記入すること。						(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月 日 ※実地研修を実施した月日を記入すること。						10/11	/	/	/	/	/
時 間 ※実地研修を実施した時刻を記入すること。						13:15					
実施手順	評価項目					評価結果	評価結果				
STEP4：準備	1	医師の指示等の確認を行う				ア					
	2	手洗いをを行う				ウ					
	3	必要な物品を準備する				ア					
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する				ア					
	5	経管栄養の注入準備を行う				ア					
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ				ア					
STEP5：実施	経管栄養の実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する				ア				
		8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する				イ				
		9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する				ア				
		10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する				ア				
		11	注入中の表情や状態を定期的に観察する				ア				
		12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する				ア				
		13	注入物の滴下の状態を観察する				ア				
		14	注入中に実地研修協力者の状態を観察する				ア				
		15	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する				ア				
		16	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ				ア				
STEP6：報告	17	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する				ア					
	18	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する				ア					
	19	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）				—					
STEP7：片付け	20	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする				ア					
STEP8：記録	21	実施記録を記載する				ア					
アの個数 計						18					

自由記載欄 ※指導内容について、別紙1-7の評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	